

第59回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録（案）

1. 日 時

令和6年9月30日（月） 午後3時00分～午後4時00分

2. 場 所

箕面市立市民会館 1階 大会議室

3. 出席者

（会長）

- ・箕面市副市長 具田利男

（副会長）

- ・大阪大学大学院工学研究科教授 土井健司
- ・箕面市地域創造部長 小山郁夫

（委 員）

- ・富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科准教授 猪井博登
- ・大阪大学大学院工学研究科助教 葉健人
- ・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部沿線まちづくり推進部部長 阿瀬弘治
- ・北大阪急行電鉄株式会社常務取締役 出口公利
（代理出席）鉄道事業部業務課調査役 濱野友輔
- ・阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部部長 野津俊明
- ・みのおの交通を考える会の代表 永田よう子
（代理出席）北川照子
- ・箕面市身体障害者福祉会会長 羽藤隆
- ・オレンジゆずるバス再編検討分科会副分科会長 藤井健三
- ・箕面商工会議所副会頭 松出末生
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 山口裕
- ・東急不動産 SC マネジメント株式会社みのおキューズモール総支配人 上田晴己
- ・国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課長 大塚保洋（オブザーバー）
（代理出席）専門官 長田慎吾
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（総務企画） 釈迦戸久夫
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官（輸送） 中村洋一
（代理出席）運輸企画専門官 大石信太郎
- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 明知顕三
（代理出席）高槻維持出張所長 片山喜生
- ・大阪府都市整備部交通戦略室交通計画課長 江藤良介
（代理出席）課長補佐 井本昌彦
- ・大阪府池田土木事務所参事兼地域支援・企画課長 遠藤洋一
- ・箕面市市政統括監 岡本秀

- ・大阪府箕面警察署交通課長 田中真理
(代理出席) 交通総務係長 淵上勝寛
- ・箕面市みどりまちづくり部長 松政秀史

(欠席)

- ・一般社団法人大阪タクシー協会専務理事 井田信雄
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 石崎宏司
- ・大阪モノレール株式会社総務部経営戦略室長 石橋宏章
- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 金澤重之 (オブザーバー)
- ・箕面市健康福祉部長 北村清
- ・箕面市教育委員会子ども未来創造局長 藪本正博

以上、委員27名のうち22名出席、オブザーバー1名出席

4. 議題

- (1) オレンジゆずるバスの運行状況について
- (2) 路線バス社会実験路線の1次評価に伴う対応内容について
- (3) その他

5. 議事要旨

- (1) オレンジゆずるバスの運行状況について

【意見・質疑応答は次のとおり】

○再編前後で赤ルートと黄ルートの利用人数は変わらず、青ルートが減少しているとの説明だが、赤ルートの栗生外院は13.2人から4.6人に減少している。他、外院の里、東生涯センター、尼谷、豊川住宅前、箕面墓地前など赤ルートの東部地域が軒並み減少している。この地域から不便になったという声をたくさん聞く。このようになった理由を改めてお答えいただきたい。また、今後オレンジゆずるバス再編検討分科会もあるので、もう一度この赤ルートの東部地域がどうしてそれだけ減っているのかを見直していただきたい。

→赤ルートの東部地域における現在の利用者数が昨年より減少していることは事務局としても認識している。特に影響が大きいと思われる点として、もともとは双方向の運行であったところが、片方向の運行になっていることが挙げられる。再編前のオレンジゆずるバスは大幅な遅延の発生が課題で、再編を検討するにあたっては今まで運行していたバス停を極力運行しつつ運行距離を短くし、いかに定時性を確保するかという点が課題としてあり、その視点から再編内容を検討した結果、片方向の運行となっている。確かに利用者数は減少しているが、一方でオレンジゆずるバスの遅延に対するご意見は再編前に比べて減少している。土曜日に実乗車して確認したが、ポイント毎で定時運行出来ており、一定、定時性の確保という点については改善されていると感じている。ご意見のとおり、オレンジゆずるバス再編検討分科会を再度開催するため、利用状況なども含めて改めて議論し検討する。

- (2) 路線バス社会実験路線の1次評価に伴う対応内容について

【原案どおり承認する。】

【意見・質疑応答は次のとおり】

○今回の議論は1次評価結果とのことだが、1次評価の期間と2次評価の期間を明確に説明いただきたい。

→1次評価は4月から6月までの利用状況をもって、2次評価は4月から12月の利用状況をもって評価を行う。

○参考資料②の表を見ると、1次評価の矢印が9月末までに見える。2次評価は来年の3月末までに見えるがいかかがか。

→参考資料②の表中のパターン1の場合、第一四半期の6月までの利用実績を集計し、7月から9月の間に1次評価をおこなっていくというもの。また、同様に「利用実績の集計②」については、第三四半期の12月までの利用実績を集計し、1月から3月の間で2次評価を行っていくというもの。

○資料2の収支率は4月から6月までの3ヶ月の集計という認識でよいか。9月までの数字だともう少し変わる可能性があるということか。

→資料2の収支率はあくまでも4月から6月の1次評価時点のもの。現時点の数字は変わっている可能性がある。

○先日の協議会において評価基準が変わったが、今回の資料の数字は新しい評価基準に基づく数字という認識でよいか。

→前回の協議会において見直した評価基準に基づく数字となっている。

○今回の議論である、100%に達しておらず、本来ならば減便するものを継続して運行するというものは、1次評価の話ということでよいか。

→1次評価の話となる。今後、12月末時点の利用状況をもって2次評価をしていく。評価基準に関してはあくまでも収支率100%になるかどうかで、そこは変わらない。100%に達していない路線に対してどう見直しをしていくかは今後アンケートや利用状況を分析して検討していくことになる。

○路線を残すためには、収支率100%を達成することが非常に重要かと思うが、そのためには地域住民や市民のかたがもっと利用しないといけない。地域任せや住民任せだけでなく、行政として何か後押しできることやPRなどの利用促進は検討しているのか。

→周知・広報に関しては現在も努めているところではあるが、改めて他にできることはないか検討していきたい。

○先程の説明の中でアンケート調査の報告があったが、その中で「社会実験について知っているか」という設問に対し、3割～4割は「知らない」と回答している。今までより一層周知する必要があるのではないかと思う。

→現時点で考え得る取り組みは実施しているところ。事務局としても今後、新たにできることがな

いか検討を行うが、今回ご参加いただいている委員の皆様におかれましても、是非社会実験のことを周囲のかたにお伝えいただくなどして広めていただけるようご協力をお願いしたい。

○評価の目安として、収支率というものは重要で動かせないものである。この資料を作った段階では便数を減らすということが主眼にあったが、収支率には路線の長さも大きく影響を及ぼす。この表は便数の増減だけで決定していくという誤解を与えかねない表現となっているので、できればもう少し柔軟な表現で、少なくとも複眼的に検討していくという表現を入れるなどして資料作りをしてはどうか。

→今後は頂戴したご意見を踏まえ資料の再考をさせていただく。

○事務局から、第三四半期の2次評価まで様子をみるとの説明があったが、小野原東線の箕面船場阪大前駅経由も100%に達していない。2次評価では100%に達しているかどうかは基準の分かれ目になるため、今後検討していく必要があると考える。また、アンケート結果についても情報共有をお願いしたい。

なお、「最も必要な行き先はどこですか」というアンケートの設問において、千里中央という回答が最も多くなっているが、再編実施前の利用者アンケートでは箕面萱野駅が最も多かったと思う。その点も含めて分析していただければと思う。

→路線バス網再編検討分科会の際にも、平成28年度のアンケートとの比較が必要ではないかというご意見をいただいております、現在アンケートの詳細な分析と平行して比較を進めているところ。必要な行き先に関して、現在、具体的な分析は出来ていないが、ご意見のとおり平成28年度と比較すると、今回の結果のほうが千里中央への要望が高いという結果が出ていることは事務局も認識している。そういった点も含め、検討する必要があると考えている。

○パターン5、6に該当する路線において、減便せず社会実験をそのまま継続することだが、検討の状況によっては、社会実験が少し延長する可能性があるということか。それとも、年度末で一旦区切るというイメージか。

→現在のところ、当初の計画通り、年度末で区切る予定。

○今回のバス路線の再編により、「不便になった」という声をたくさん聞く。もちろん、良くなったという声も聞くが、それと同等かそれ以上に悪くなったという声が小野原地域でも聞こえてくる。今回、社会実験路線の評価と対応に関する議論だが、公共交通全般としては路線バスもオレンジゆずるバスもある。オレンジゆずるバスに関しては、再編検討分科会で議論を深められれば良いが、箕面駅や栗生間谷から千里中央行きのバスが減って大変だといったような、社会実験路線以外の路線について検討することはないのか。

→路線バス再編に伴い、間谷住宅や栗生団地地域から千里中央行きの便が減ったなどのご意見があることは承知している。今回の議題である社会実験の評価等の他にも、市内のバス路線について課題があることは認識しており、運行事業者とどういった対応が出来るか協議を進めている。市民のみなさまにとって便利で利便性の高いかつ持続性のある公共交通を目指して協議等を進めていく。

○主体は運行事業者なので、基本はお願いすることになるかと思うが、運転士不足や財政的な問題もあるので、行政も介入しないと改善は難しいと考える。行政として、どれだけ支援できるかということも併せて検討いただきたい。実証路線だけでなくバス路線の増便も考えていけるような議論を期待したい。

→運転士不足については全国的な課題であり、改善されない限り路線を拡充することなども難しいということは認識している。運転士不足に対して何か少しでも力になれることがないか、運行事業者とも協議・検討を進めていきたい。

→事務局を通じて、多くのご意見があるということは承知している。一方、実際の利用状況が大きなポイントになってくる。ご意見はもちろん参考にするが、利用状況や運転士数から、どこにどれだけの人数を割いて運行していくか検討していく必要があり、その点を踏まえて、また事務局と相談させていただきたい。

○議題以外の意見については、別途、事務局で確認するように。

(3) その他

【意見・質疑なし。】

以上